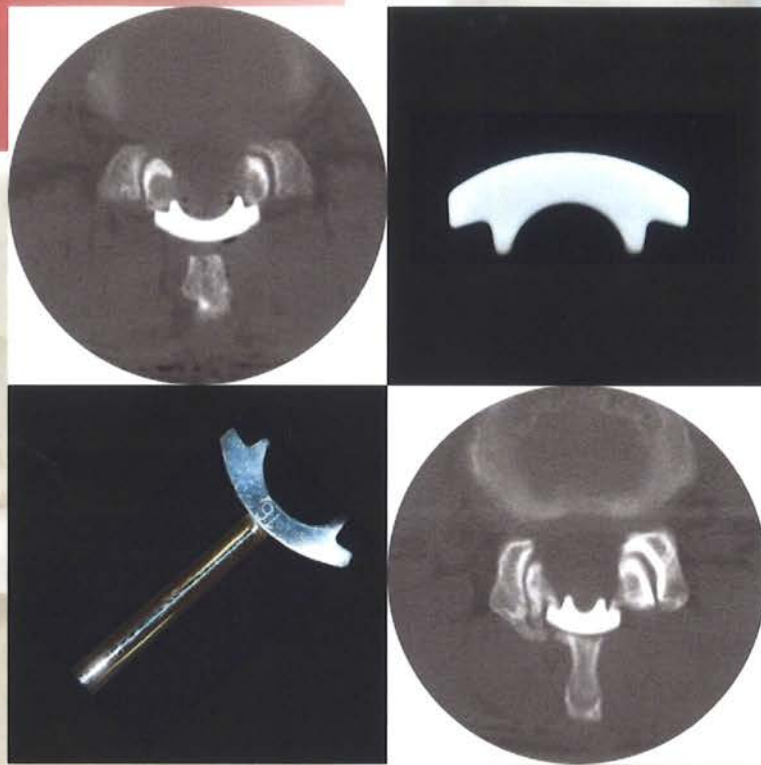


棘突起スペーサ

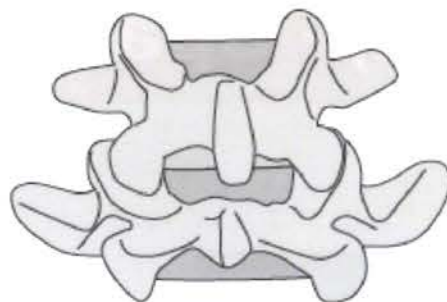
M (Mulch) - Spacer



M (Multi) - Spacerの特徴

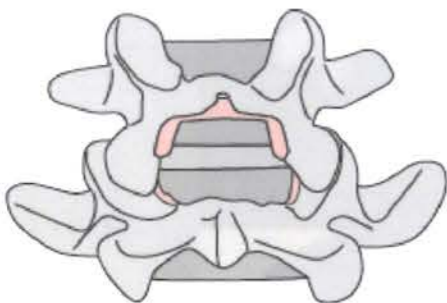
- マルチ** : 頚椎・胸椎・腰椎の椎弓切除術や開窓術、縦割法に使用可能です。アーチ形状のため脊柱管スペースをより広く確保できます。
- 安全性** : 工夫されたツバの形状により脊柱管へ落ち込みにくくなっています。
- 目的** : 後方除圧後、脊柱管の歪みや関節のズレを防止することで、より安定した脊椎の支持性を確保できます。又、瘢痕形成による拡大された脊柱管スペースの再狭窄を防止します。

腰椎
開窓術
使用例



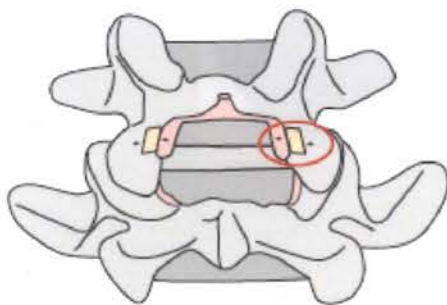
1 病変の椎間をマーキングしXpにて確認する。

左より進入し、骨膜下にPVM剥離。
棘突起は基部でオシレーターにて切除。
そのまま棘突起ごと右PVMも椎弓より剥離する。




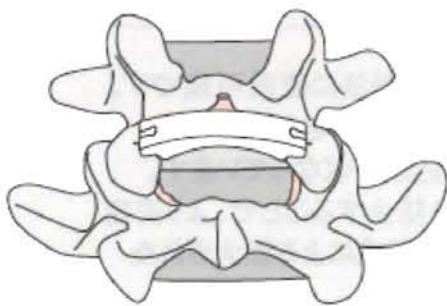
2 开窗(除圧)

最初は5mmφダイヤモンドバーを使用し、頭側は椎間板レベルをこえて上関節突起先端まで14~18mm幅で切除する。
尾側は椎弓根部が触れるまで20mm幅位に切除する。
腹側はハの字になる様に3mmφダイヤモンドバーで黄色靭帯が上関節突起から剥離出来るまでが目安。
除圧すると硬膜と神経根、椎間板が確認できる。



3 「」部位にSpacerを設置するため、ダイヤモンドバーで幅、表面をならしておく

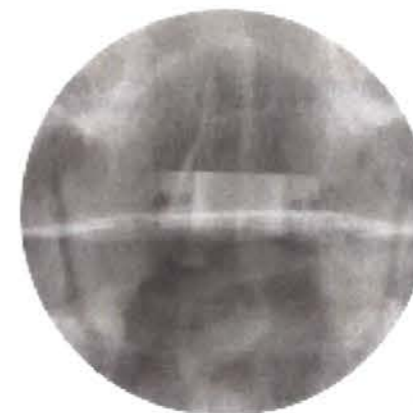
設置したSpacerを安定させる為ダイヤモンドバーで幅、表面をならしておく。
皮質を削り過ぎると糸切れをおこしやすくなるので注意する。
頭側の棘突起にSpacerをもたれさせるよう設置する。
Spacerの固定にはFiberWireを使用する。
FiberWireを通す骨孔は3mmφダイヤモンドバーで下関節突起にあける。部分
トライアルでSpacerの大きさ(幅)を決定。



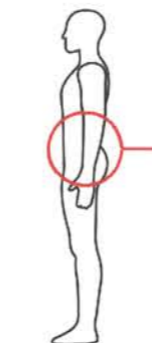
4 Spacerの設置

FiberWireでSpacerを下関節突起に固定する。
Spacerは棘突起(頭側)、椎弓(腹側)にFiberWireでしっかりと固定され、ゆるみがない事を確認。
再度、硬膜・神経根の除圧を確認しておく。

臨床
応用例



正面・側面ともスペーサは生理的な位置に正しく挿入されています。



臨床
応用例



スペーサを使用することにより特に体動時や負荷をかける姿勢における脊柱管の歪みや関節のズレを防止します。また棘突起の位置が生理的な位置に保たれます。

使用
スペーサ



サイズバリエーションが豊富なため患者様の体格や術式に最適なスペーサを選べます。